【KEKエッセイ #51】 KEK構内にいるキツツキ

KEKエッセイ

2021/10/21

梅雨入り間近の6月上旬、理論センター長のHさんと理論秘書のI岡さんとO野さんから、「キツツキが木をつついているような音がする」との情報がもたらされました。Hさんが録音した、”その音”も聞かせていただきました。小刻みに震えるような、そして共鳴するような、なんとも不思議な音です。これまで知っているどれとも異なりました。私は本格的なバードウォッチャーではないのですが、普段、少年時代からの”生き物好き”を表明していることもあり、たいへん幸せなことにこの種の”KEKに生息する生物の謎”の情報が多くもたらされます。すでに”鳥好き”で知られるIさんのところにも相談が行っているようでした。これまでも、”所員を襲ったキイロスズメバチの巣”、”構内のアオダイショウの出現パターン”、”ハクビシンのフン”、”干上がる池のギンヤンマのヤゴのエサとは”、”毎冬のジョウビタキの縄張りの変遷”、”ガビチョウ現わる”、などの謎の解明のために出動してきた”実績?”もあり、問題解明への期待も高まっているようです。これら他のエピソードは、またの機会に紹介したいと思います。もちろん、KEKの所員の中には、もっと本格的なバードウォッチャーの方々がいらっしゃるでしょうが、ここは素人バードウォッチャーのとある体験におつきあいいただきたいと存じます。（理論センター　郡和範）

2020年
2021年10月
2021年9月
2021年8月
2021年7月
2021年6月
2021年5月
2021年4月
2021年3月
2021年2月
2021年1月
2020年12月
2020年11月
2020年10月

早速、コロナ禍の運動不足解消も兼ねて仕事後の夕方に捜索をはじめました。夕刻とはいえ、初夏の日差しは散策には十分すぎるほどです。研究本館から職員会館に向かう途中、青葉で覆われた桜並木を通り過ぎると、「ギィー、ギィー、ギィー」という濁った声が聞こえました。これはお馴染み、コゲラの鳴き声です。コゲラは日本最小のキツツキで、スズメよりちょっと大き体長の鳥です。KEK構内やつくば一帯では、冬にコゲラと同じぐらいの大きさの鳥であるシジュウカラ、エナガなどのカラ類の群れに、メジロなども交えた10羽から数10羽程度の混群（こんぐん）の一員として紛れているのを目にします。普段は主に幹の隙間にいる虫をとらえて食べていて、小枝や葉にいる虫を探している混群の他のメンバーとは競合しないようで、小柄ながらたいへんたくましい様子です。ちなみにコガラというカラ類もいますので、名前自体がたいへん紛らわしいです。

その桜の木の幹に垂直にとまり、巧みにジグザグに激しく翔け登りながら、しきりに虫などを探していました。その途中、なんと桜の枝にとまったかと思うと、すぐに桜の実（サクランボではない）をつつき始めたのです（写真1）。Iさんによると、桜の実を食べることはすでに知られているとのこと。私はこれまでコゲラは虫のみが主食だと盲目的に信じていたのですが、個人的にたいへんなインパクトでした。この日は、このようにコゲラを小一時間ほど追跡していたのですが、木をつついて音を出す行為（ドラミング）は全く行いませんでした。子供の頃によくコゲラに出会っていましたが、コゲラのドラミングはまだ聞いたことがありません。

2020年9月
2020年8月
2020年7月
2020年6月
2020年5月
2020年4月
2020年3月
2019年4月
2018年12月
カテゴリー
COVID-19　(23)
J-PARC　(19)
KEKエッセイ　(23)
KEKキャラバン　(2)
KEKのひと　(3)
イベント　(28)
お知らせ　(51)
トピックス　(139)
プレス発表　(58)

写真1.　桜の実をつつくコゲラ。ギィーっという鳴き声を上げて、ジグザクと忙しく幹を登って行きました。職員会館前の桜並木にて。2021年6月2日 郡和範撮影。

数日経ち、さらに“その音”を聞いたという報告が続々と寄せられました。現場を抑えられないという焦る気持ちで日々を過ごすうち、もしかしたらコゲラは犯人ではないかもしれないと思うようになっていました。まだ構内では見たことないが、もっと大きなアカゲラあたりかなとIさんと想像をめぐらせていたのです。その矢先の6月5日土曜日、臨時の所用でオフィスに来る途中、研究本館西の階段で、とうとうそれに出くわしました。

総勢20羽ほどのコゲラとエナガの見事な混群が、研究本館西の松の木に移ってきたのです。まず初夏でも、これほど大きな混群をつくることに驚いたのと同時に、その距離がびっくりするほど近いのです。研究本館西の階段踊り場からは、その松の枝は手にとるほどの位置にあります。その距離の近さにもかかわらず人を怖がることなく、その枝と枝の間を飛び交っています。その群れに丸ごと包まれているかのような錯覚を起こすほどの体験でした。

そして、何羽かのコゲラが激しく木をつつき始めました。それはキメ細かく小気味良い乾いた音の連続で、またその余韻が響きわたる見事なドラミングでした。あまりに集中していたせいか周りの景色が見えなくなり、コゲラに吸い込まれていきそうな錯覚に陥りま

一般公開　(5)

公開講座　(5)

共通基盤　(5)

加速器　(11)

報道関係者向け　(7)

機構長コラム　(5)

物構研　(91)

科学と音楽の響宴　(1)

科学技術週間　(2)

素核研　(52)

過去のニュースルーム

過去のニュースはこちら

す。よくみると、木の皮を剥がしながら、小さな幼虫を巧みにつつき出しているのが見えます。どれだけ経ったのか時間を忘れて見入っていました。

写真2.　研究本館西の松の木に来たコゲラ。盛んに木をつつき、ドラミングを行っていました。エナガと20羽ほどの混群を形成していました。奥に見えるのは4号館。2021年6月5日 郡和範撮影。

その際、とっさに撮影した動画から落とした写真を紹介します（写真2）。動画を同僚たちに公開すると、コゲラとエナガの可愛らしさを初めて知ったという、O石さんとN田さんなどからたいへんな反響がありました。そう、カラ類の混群を構成する鳥たちって小さくて本当に可愛いいんですよね。鳥に詳しいか詳しくないかにかかわらず、この種の感情は誰とでも共有できる大事な価値観からくるものだと改めて感じさせられます。物理学上の大発見も、誰とでも共有できる普遍的な価値があるのですが、それを一般の方にお伝えする方法の工夫が必要だと考えさせられます。コロナ禍で外出が厳しく制限される中、KEK構内の自然に囲まれて仕事ができる喜びをかみしめた、エキサイティングな１週間でした。

関連記事(サイト内記事)

2021/09/30【KEKエッセイ #50】ノーベル賞を考える

2021/09/14【KEKエッセイ #49】天使と素粒子

2021/08/30【KEKエッセイ #48】ああ、海外出張‥

2021/08/06【KEKエッセイ #47】増築を重ねた温泉旅館に隠された別館〜ミューオンが切り拓く新しい物理学

記事一覧へ戻る

Share On Social media!

SNSで共有

KEKについて

KEKとは
資料
情報公開
コンプライアンス
安全への取り組み

ニュース

トピックス
プレスリリース
KEKのひと
KEKエッセイ

組織

素粒子原子核研究所
物質構造科学研究所
加速器研究施設
共通基盤研究施設
先端加速器推進部
研究支援戦略推進部
オープンイノベーション推進部
技術部門
管理局
J-PARC

国際協力

グローバルな連携
アジアとの連携
北アメリカとの連携
ヨーロッパとの連携

教育

中学生・高校生向け
大学院生・大学生向け
外国人留学生向け

広報活動

施設見学
常設展示
KEKキャラバン
KEK一般公開
公開講座

社会への貢献

科学 × 音楽
SDGs
つくば(KEK)の放射線量
環境報告書

利用者別

研究者向け
報道関係者向け
企業向け
職員向け
求人情報
調達情報
会議とセミナー
KEKゆかりの会

お問い合わせ

問い合わせ先一覧
交通案内
利用規約

KEK 大学共同利用機関法人
高エネルギー加速器研究機構

〒305-0801
茨城県つくば市大穂1-1

© 1971 - 2021 KEK